

一 般 質 問

令和 2 年 9 月 1 0 日
第 3 回 広尾町議会定例会

通告 順序	議席 番号	質 問 者
1	4	前 崎 茂
2	1 1	旗 手 恵 子
3	1	松 田 健 司
4	1 0	小 田 雅 二

通告順序 1 質問者：前 崎 茂

1. 高齢者ドライバーに「サポカー補助制度」の導入を

政府は、高齢者ドライバーのペダル踏み間違いによる交通事故を受け、昨年 12 月から高齢運転者の安全対策を行うことを目的に「サポカー補助制度」を導入したところである。

65 歳以上の高齢運転者が、対歩行者衝突被害軽減ブレーキなどを搭載した「安全運転サポート車」を購入又は急発進等抑制装置を後付ける費用に補助金を支給している。

中札内村でも今年度から高齢者に安全運転支援装置が搭載された自家用車の購入や所有している自動車に同装置の後付け費用に補助するとしている。村では、高齢者の交通事故防止を啓発し、安全なまちづくりを村ぐるみで推進している。

本町では、高齢者の皆さんが「通院や買い物、コミュニティを図るのに車なしでは、支障をきたす」と言われている。

高齢者ドライバーを対象に、「サポカー補助制度」を導入すべきではないか。

2. シーサイドパークキャンプ場の整備計画は

シーサイドパークキャンプ場は、今年度、新型コロナウイルス感染防止のためとの理由で、利用を中止したところであるが、管内でも同理由で中止したキャンプ場は、本町だけとのことである。

アウトドア用品販売のスノーピーク(株)山井会長は、新型コロナウイルスの流行に伴う「生活スタイル」の変化や自然回帰の動向など、アウトドアは、必然的なカテゴリーとなり、今後も活況を呈するとしている。

また、道内でも近年のアウトドアブームを背景にキャンプ場が新設され、8 箇所オープンしている。これらのブームを受け、札内川キャンプ場では、移動式のモバイルハウスを、芽室嵐山キャンプ場では、日帰りキャンプなど新メニューを整備している。

本町は、平成 6 年度に 1 億 5,000 万円余りの事業費でトイレ、炊事場を整備した後、改修等を行わず今年度、キャンバステントサイト、ファミリーキャビンを撤去した。

今後のキャンプ場の整備計画は、どのように考えているのか。

通告順序2 質問者：旗 手 恵 子

1. 子育て支援の拡充を

第6次広尾町まちづくり推進総合計画の「計画原案」が示され、その中で、目標に、「日本で一番、安心して子どもを育てられるまちをめざす」とあるが、これまで、実現をみていない次の課題の具体化を示していただきたい。

- ① 子どもの医療費無料化は高校生まで拡大を
- ② 出産祝い金制度の創設を

通告順序3 質問者：松 田 健 司

1. 新型コロナウイルスの罹患者の対応と風評被害への対策について

(1) 町内で、新型コロナウイルスの罹患者が発生した場合、どのような対応になるのか。その際の、シミュレーションは。

- ① 一般町民が罹患した場合
- ② 役場等の公共施設の職員が罹患した場合

(2) 町内で、新型コロナウイルスの罹患者が発生した場合を想定し、個人への誹謗中傷を食い止める啓発、広報への取り組み等の考えは。

通告順序4 質問者：小 田 雅 二

1. 核のゴミ最終処分場の問題をどのように考えるか

寿都町長が第一段階の「文献調査」に応募すると表明したため、近隣市町村や北海道全体としても物議を醸すこととなった。

この件について、広尾町長としてどのように受け取り、また、北海道におけるこの処分場の受入れ等について、どうあるべきと考えるか。

2. 災害対応の再検証による住民意識の高揚について

気候変動をはじめとする様々な理由から、自然災害の発生は増加の一途をたどり、とりわけ豪雨による被害が今般、著しい。

他町村より、自然災害が少ないと思われがちな広尾町だが、町内で発生した個別の災害について、今一度、再確認・再検証を行い、同時に被害状況の写真展などを行うことで住民に対して、一層の警戒心を求めることが必要と思うが、どのように考えるか。